

政治・経済

【解答】

I	問 1		問 2		問 3		問 4	
	解答 1	解答 2	解答 3	解答 4	解答 5	解答 6	解答 7	解答 8
	ウ	ア	ウ	エ	カ	イ	カ	ウ
II	解答 A		解答 B		解答 C		解答 D	
	一票の格差 (一票の価値)		参政		団体自治		住民自治	
	解答 E		解答 F		解答 G		解答 H	
	アダム・スミス		金本位		国民年金		積立 (積み立て)	
III	問 1	日本国憲法は、国民の三大義務として、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務、勤労権の主張とその保護を受ける前提としての勤労の義務、国家運営に必要とされる費用を負担することを求める納税の義務を定めている。						
	問 2	代表的な物価指数には、消費者が小売段階で購入する商品の価格を指数化した消費者物価指数、企業間で取引される卸売り段階にある商品の価格を指数化した企業物価指数、および名目 GDP を実質 GDP に換算するための GDP デフレーターがある。						

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年5科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。2014年度の政治・経済の問題構成は、全体で大問Ⅰ～Ⅲのうち、大問Ⅰが空欄補充問題（記号選択式8問）、大問Ⅱも空欄補充問題（語句記述式8問）、大問Ⅲが100字程度の説明論述式問題（2問）となっている。

全体として、政治・経済の各分野にわたる基礎的・基本的な知識と理解を試す問題で構成されており、標準的なレベルの高等学校における政治・経済の履修範囲内での出題となっている。

以下、大問Ⅰ～Ⅲについて内容を概観しつつ、今後の学習上必要な点をアドバイスしていきたい。

大問Ⅰの空欄補充問題は、各分野のテーマとなる問題文が4つ用意されており、2個ずつ空欄を補充していく形式である。内容は、日本政治2、中国政治2、日本経済2、国際問題2という構成である。問1は行政機能拡大の中での行政指導や許認可事務、問2は中国の権力集中制と改革開放経済・民主化の問題、問3は日本的企業経営と雇用慣行・取引慣行・資金調達方式、問4は南北問題と経済援助の現状となっている。いずれも、基礎的知識の上に現代的視点があるか否かが問われており、用語集と資料集の平行な学習が望まれる。

大問Ⅱの語句記述式の空欄補充問題（1）～（4）は、（1）、（2）が政治、（3）が経済、（4）が社会の分野から出題されている。（1）は「1票の格差」と参政権の平等、（2）は地方自治の本旨、（3）は資本主義経済の発展と市場原理、（4）は年金制度における積立方式と賦課方式について、基本的な用語が正しく記述できるかどうかを問う問題である。問題文の前後を読めば正答の用語がたちどころに思い浮かぶくらいの基本問題集による反復学習が必要であるし、それによって合格点をとるための学力をつけることは十分可能である。

大問Ⅲの問1は日本国憲法の三大義務について、問2は脱デフレ・物価変動との関連で代表的物価指数について、各々説明する問題となっている。出題形式としては、「記述問題」で、字数は100字となっているため、受験生にとっては難易度高めの問題に見えると思う。しかし、問1、問2ともに、政治・経済の重要語句（キーワード）なので、教科書や用語集等で基本的な学習をしっかりとっていた受験生にとっては、十分得点できる問題である。したがって、今回の問題の中では最も得点差がついたものと思われる。

受験対策としては、①教科書による全体の把握、②資料集を参考にした現状との関連把握、③用語集を駆使した重要用語の理解と暗記、といった順に基本を手堅く押さえていけばよい。その上で、大学入試過去問集や予想問題集で答案練習を積み、試験問題の形式に即して実践的演習を重ねれば、入試突破力は万全のものとなろう。また、大問Ⅲのような説明論述式の問題に有効に対処するには、ノートに重要用語の定義（語句の意味）とともに関連事項を箇条書きにまとめておく作業をしておくことを勧めたい。記述が苦手な受験生は、最初は30字程度から始め、徐々に字数を増やしていく方法をとると良いだろう。大問Ⅲの形式で語句説明を求める論述問題は2013年度に引続き出題されているが、今後もこの形式が踏襲される限り、上述のノート作業を地道にやることにより入試対策は確実なものとなる。

以上の傾向分析と受験対策からわかる、入試科目としての政治・経済の学習の核心は「キーワード」である。「キーワード」の意味を正確につかみ、関連事項とリンクさせて理解することにより、政治・経済の内容が正しく把握でき、それがそのまま入試対策へと転化できる。したがって「キーワード」とは、政治・経済の論理構成・理論内容の空間＝「部屋」に入っていけるまさに鍵＝「キー」となる用語＝「ワード」にはほかならない。受験生諸君の健闘を祈る。